



証券コード：7963

# 2022年12月期 決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」  
それが、私たちの研究開発の出発点です。

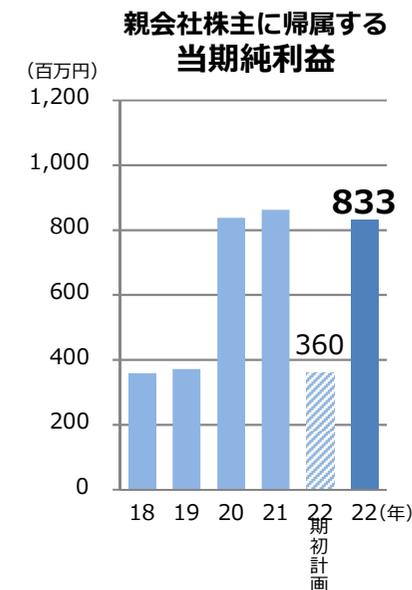
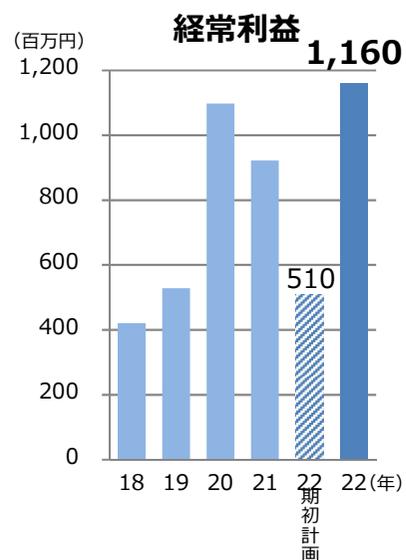
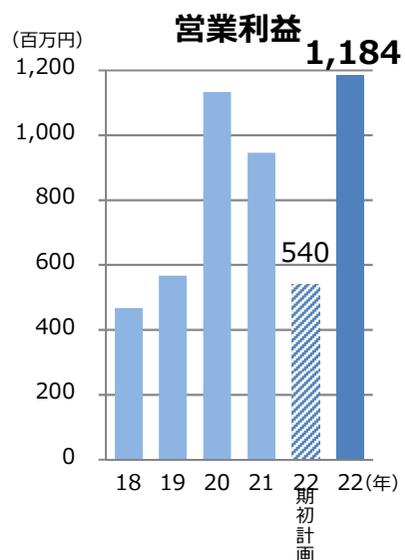
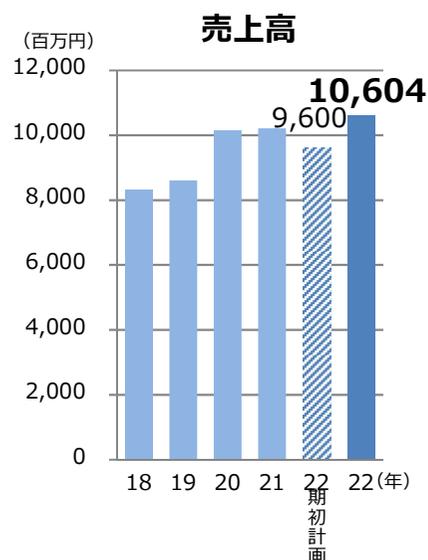
クリーン、ヘルス、セーフティで社会に  
 **興研株式会社**

# 連結損益の状況

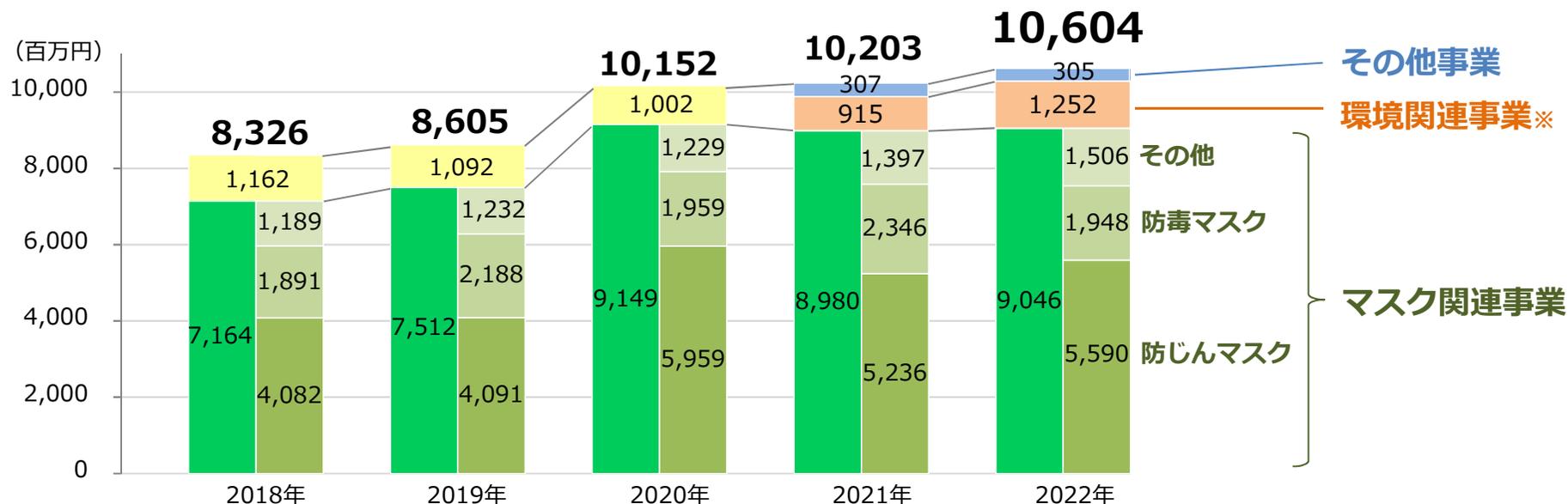
○売上高は三期連続で過去最高額を更新、営業・経常利益も前連結会計年度実績を上回る  
 (単位：百万円)

	2021年12月期		2022年12月期	
	連結実績	売上高比	連結実績	売上高比
売上高	10,203	100.0%	<b>10,604</b>	<b>100.0%</b>
売上原価	5,556	54.5%	<b>5,611</b>	<b>52.9%</b>
売上総利益	4,647	45.5%	<b>4,992</b>	<b>47.1%</b>
販売費・一般管理費	3,701	36.3%	<b>3,808</b>	<b>35.9%</b>
営業利益	945	9.3%	<b>1,184</b>	<b>11.2%</b>
経常利益	922	9.0%	<b>1,160</b>	<b>10.9%</b>
特別利益（※マスク製造設備補助金等）	※261	2.6%	-	-%
親会社株主に帰属する当期純利益	862	8.5%	<b>833</b>	<b>7.9%</b>

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しております。この結果、前連結会計年度と収益の会計処理が異なることから、前連結会計年度増減額・増減率は記載しておりません。



# 連結セグメント別の業績



※2022年12月期決算分より「環境関連事業」を独立した報告セグメントとして開示しております。（2021年実績は参考用）

<b>マスク 関連 事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業用の防じんマスク・防毒マスクの需要については、当連結会計年度中においても回復基調が続き、特に溶接用では、2021年4月から金属アーク溶接等作業について健康障害防止措置が義務付けられたことにより、安全性（防護性）の高い電動ファン付き呼吸用保護具が選ばれ、販売は堅調に推移しました。</li> <li>感染対策用マスクについては、感染拡大が繰り返されたことにより増加した受注残を解消すべく、高稼働率の生産体制を維持し、最大限の供給を継続しました。</li> <li>これらの結果、当事業全体の売上高は90億46百万円（前連結会計年度は89億80百万円）となりました。</li> </ul>
<b>環境 関連 事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オープンクリーンシステム「KOACH」の大型機種「フローアークーチ」は、その清浄度の高さ、低コスト、低消費電力という圧倒的な優位性に加え、短納期での設置が可能であること等、既存のクリーンルームにはない特長が市場で評価されています。内容を充実させたユニークなリモート営業を展開したことが奏功し、全国の様々な機関への周知が進み、新規設備投資案件に幅広く組み込まれたことなどにより、販売台数、売上高ともに大幅増を実現しました。</li> <li>以上のことから、当事業全体の売上高は12億52百万円（前年同四半期は9億15百万円）となりました。</li> </ul>
<b>その他 事業</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍における医療機関の現場実態を考慮し、自動ブラッシング機能付き内視鏡洗浄消毒装置「鏡内待ⅡG」の販売活動は一部制限をして取り組みました。</li> <li>これにより当事業全体の売上高は3億5百万円（前年同四半期は3億7百万円）に留まりました。</li> </ul>

（注）「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当連結会計年度の期首から適用しております。この結果、前連結会計年度と収益の会計処理が異なることから、経営成績に関する説明において前連結会計年度増減額・増減比の記載はしていません。

# 連結財務の状況（要約貸借対照表）

（単位：百万円）

	前連結会計年度 2021年12月31日	当連結会計年度 2022年12月31日	増減	主な増減要因
<b>資産の部</b>				
流動資産	7,988	9,249	+1,261	商品・製品の増加：+304 原材料・貯蔵品の増加：+293
固定資産	11,611	11,318	△293	建物・構築物 減価償却累計額の減少：△201 機械装置・運搬具 減価償却累計額の減少：△208
資産合計	19,600	20,568	+967	
<b>負債の部</b>				
流動負債	4,108	4,410	+302	1年内返済予定の長期借入金の増加：+116 未払法人税等の増加：93
固定負債	4,378	4,338	△40	リース債務の減少：△108
負債合計	8,487	8,749	+262	
<b>純資産の部</b>				
純資産合計	11,113	11,818	+705	利益剰余金の増加：+648
負債純資産合計	19,600	20,568	+967	

# 連結財務の状況 (要約キャッシュ・フロー計算書)

(単位：百万円)

	当連結会計年度 2021年1月1日 ～12月31日	当連結会計年度 2022年1月1日 ～12月31日	主な内訳
営業活動によるC・F	655	<b>618</b>	税金等調整前当期純利益：1,160 減価償却費：594 売上債権の増加額：△405 棚卸資産の増減額：△594
投資活動によるC・F	147	△ <b>184</b>	有形固定資産の取得による支出：△167
財務活動によるC・F	△176	△ <b>291</b>	長期借入れによる収入：1,400 長期借入金の返済による支出：△1,233 配当金の支払額：△175
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△3	<b>55</b>	
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	622	<b>198</b>	
現金及び現金同等物の 期首残高	1,564	<b>2,187</b>	
現金及び現金同等物の 期末残高	2,187	<b>2,386</b>	

# 事業トピックス 1. フィットテストの義務化に向けて

改正特定化学物質障害予防規則等に基づき金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場では、(1)2021年4月から空気中の溶接ヒューム濃度測定が開始、(2)2022年4月からは、この測定結果を基に、溶接ヒューム（マンガン）濃度に応じた防護性能のマスクの選択、使用が始まりました。さらに、(3)2023年4月からは、面体形の呼吸用保護具を使用する作業者については、1年以内ごとに1回フィットテストを実施することが義務付けられます。

## ● フィットテストの目的

呼吸用保護具を基準に従って選択し、使用する上でその期待される防護性能を得るためには、顔への密着性（フィット）が極めて重要です。

このため作業の方それぞれが使用する「呼吸用保護具が適切に装着されていること」を確認することを目的としてフィットテストを行います。

## ● 2種類のフィットテスト

定量的フィットテストとは、呼吸用保護具の接顔部からの漏れを装置で測定したフィットファクタの値により、フィットが十分であるかどうかを評価する方法で、半面形の呼吸用保護具と全面形の呼吸用保護具に対して実施できます。

定性的フィットテストとは、試験物質を検知する被験者の感覚反応によりフィットが妥当であるかどうかを評価する方法で、半面形の呼吸用保護具に対して実施できます。



定量的フィットテスト



定性的フィットテスト

## ● フィットテストの動作

2つのテストでは、JIS T 8150 : 2021で規定されている以下の7つの動作を行います。



## ● フィットテスト実施の応援サービス

### 1. フィットテスト実践動画集「動画で見るフィットテスト」

テストを行う際の参考にしていただけるよう、動画集「動画で見るフィットテスト」を公開しています。

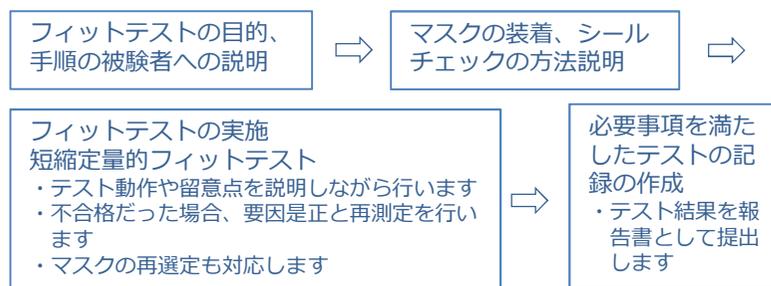
動画集は、定量的・定性的フィットテストの内容、テストに必要な機器の準備と設定から被験者への説明、測定方法、判定後の措置まで、テストの一連の流れを紹介しています。



### 2. 有償サービス「フィットテストサービス」

当社では、当社製マスクをご愛用いただいている事業者の皆様へ、当社がフィットテスト実施者としてフィットテストを請け負う有償サービス「フィットテストサービス」を開始いたしました。お客様の事業場に伺い、法令に基づいたフィットテストが実施できるように当社がフォローするサービスです。

【実施内容】法令に規定された必要事項をすべて実施します。



当社は、本サービスを通じて着用者の方々から直接マスクやフィット等に対する所感やご意見をお聞きする機会を増やことで、今後の「安心して使用していただける、使って喜ばれる」製品作り役に役立ててまいります。

## 2. 多様な分野に広がるKOACH

オープンクリーンシステム「KOACH」が開発された当初は、研究施設や大学などで多く採用されていましたが、開発から10年以上が経過した現在においては、多様な分野での採用が進んでいます。「KOACH」が生み出すスーパークリーン環境を必要とする場面が多岐にわたってきていることが伺えます。以下に各分野で「KOACH」が採用された事例をご紹介します。

### ●半導体分野（めっき薬品製造用／フロアーコーチ）

半導体分野を中心とするお客様からの清浄度要求の高まりを背景にフロアーコーチを導入されました。

「将来的により高い清浄度を要求されることもあると思うが、KOACHのISOクラス1の清浄度なら、お客様の要望にしっかりお応えすることができ、安心や信頼に繋がると感じている」とのことです。



充填機からは発塵もあるため、汚れてもすぐに清浄度が回復するという点も高く評価

### ●遺伝子研究分野（RNA分析用／テーブルコーチ）

遺伝子の発現情報をより高い精度で解析できるRNAの極微量解析作業にテーブルコーチを導入されました。

「開放状態で作業性が向上した」、「清浄度が高まりコンタミネーションしなくなった」、「サンプルの乾燥が抑えられた」等により検査精度の向上につながっています。



KOACHなら作業性を損なうことなく、分析精度を向上できる

### ●精密加工分野（フィルム・テープの精密加工用／フロアーコーチ）

フィルム等の貼り合わせ加工では、異物やゴミが混入する確率が高く、それを防ぐにはKOACHのサイドフローの気流が適していたことからフロアーコーチを導入されました。

また、点検やフィルタ交換も容易で、ランニングコストも以前より大幅に抑えられているそうです。



スーパークリーンルーム内部（ISOクラス1）で、貼り合わせ加工を実施

### ●食品分野（菌検査用／スタンドコーチ）

KOACHは複数人で同時に作業でき、作業が効率化されました。

それにより、現状の人数のまま対応できる検査数を大幅に増やすことができ、また清浄度もクラス1で、より正確な検査が可能になったそうです。



対面作業もでき、物の受け渡しスムーズなため作業動線が効率化

### ●医療分野（体外受精の顕微授精用／フロアーコーチ）

「子宮の中と同じような究極の清浄空間で受精卵を育てることができれば患者様のためになる」という院長の思いから、フロアーコーチが導入されました。

さらに、クリーンルームでは困難だった胚培養士が顕微授精を実施している様子を患者様に間近でご覧いただく環境も実現できたそうです。



顕微授精が行われるフロアーコーチ内部(奥に位置するフードから気流が吹き出す)

### ●宇宙分野（宇宙空間の微粒子分析用／テーブルコーチ）

国際宇宙ステーション(ISS)で採取した宇宙塵(宇宙空間を漂う固体微粒子)を分析することで、地球生命誕生のなぞに迫るプロジェクトにテーブルコーチが使用されています。

KOACHを活用したことで地球帰還後の捕集試料の汚染を回避しながら宇宙塵の初期分析を行うシステムを構築することができたそうです。



KOACHのユニットが捕集素材のシリカエアロゲルの清浄度を維持する

### 3. ウィズコロナ下における施策

コロナ禍の早期収束が期待されていますが、2022年も感染の再拡大が何度も繰り返される1年となりました。当社はウィズコロナの下、医療従事者の感染対策として使用されているN95マスク「ハイラック350型」の安定供給とシェア拡大に努めております。

また、感染症患者の個人隔離が可能な「感染症患者専用マスク」の普及並びに医療分野に特化した新製品「感染対策用高性能マスク」「感染対策用保護メガネ」を新たに上市し、市場拡大に努めました。

#### ● 感染症患者専用マスク「ハイラックうつさんぞ」

感染症患者は「吸気弁」からマスク外の空気を楽に吸うことができ、かつ「高性能フィルタ」と顔との密着性を高める「FFリップ」によって吐く息に含まれるエアロゾルや飛沫をできるだけマスクの外に出さない構造になっています。

感染症患者の方が当マスクを装着し、医療従事者の方が「ハイラック350型」を装着することで、感染リスクが高まるシーンでも安心して医療の提供ができます。



N95マスク  
ハイラック350型



吸気弁

#### ● 感染対策用 高性能マスク「1180MD型」

N95マスクと同等の捕集性能を有するフィルタを取り替えるタイプの感染対策用マスクです。

マスク本体としめひもは洗浄・消毒が可能で、交換部品はフィルタ以外に、しめひも、吸気弁、排気弁もご用意していますので、衛生的な手入れをすることで長くご使用できます。

内蔵したフィットチェッカーで陰圧法によるフィットチェックが簡単にできます。



フィットチェッカー

#### ● 感染対策用 保護メガネ「KE-01 Premium for Hi-Luck」

ハイラックとの相性が良く、液体飛沫・飛来物から眼を守る高品質の感染対策用の保護メガネです。

アイケアグラス史上最高の曇り止めコートレンズは圧倒的に曇りにくく、耐薬品性にも優れています。頭部・顔との隙間ができにくい密着度を高めた構造になっており、重量も35gと軽量です。



眼鏡の上からの着用可

### 4. 会員サイト

2022年8月より、会員専用サイト「興研 CHS CLUB」を開いたしました。本サイトは、「Cクリーン、Hヘルス、Sセーフティ」の分野別にコンテンツをまとめております。

会員登録していただくと「KOACH」の保証期間の延長のほか、動画や技術資料等の会員様限定コンテンツの閲覧・ダウンロードが可能となります。

当社は、本サイトを通じて会員様とのコミュニケーションを密に取り、当社のファンづくりはもとより、今後のマーケティング、製品作りに役立てまいります。今後更に、会員様に喜ばれ歓迎されるコンテンツの追加・充実に努めます。



# 2023年12月期連結業績・配当予想

次期（2023年12月期）の当社グループを取り巻く経営環境は、ウィズコロナの様々な政策効果によって景気の持ち直しが期待される中、物価高や地政学的要因を是らんだ海外経済の減速等による景気の下押しリスクが存在しており、依然として先行き不透明な状況にあります。

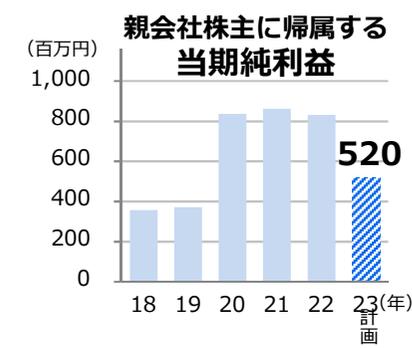
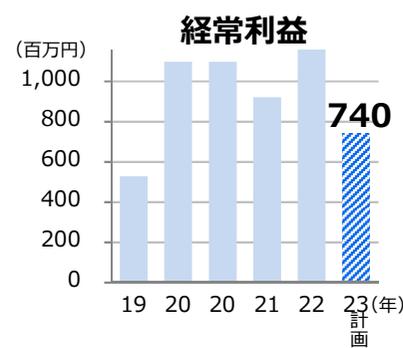
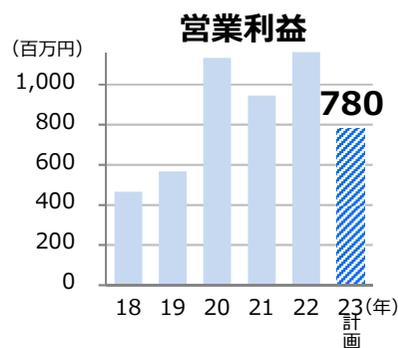
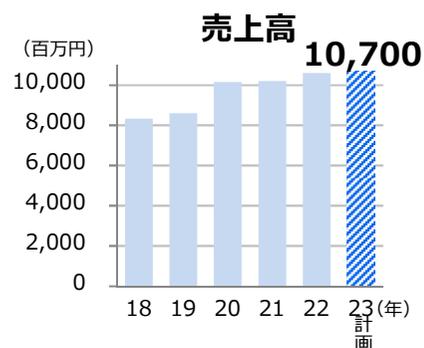
こうした環境下において、当社グループの『クリーン、ヘルス、セーフティ』分野における研究開発の成果は、ますます市場から求められており、これまでの活動を更に進化させながら、新市場の育成・拡大に努めてまいります。

産業用マスクは、インフラ整備に伴う改修工事の増加や安全管理が強化された溶接市場の需要増が見込まれており、市場シェア拡大に取り組みます。感染対策用マスクは、コロナ禍の収束に伴う一定量の減収が見込まれますが、早期に受注残を解消し、全国に広がった医療機関等との取引基盤をより確かなものにしてまいります。オープンクリーンシステム「KOACH」は、これまで進めてきたリモート営業を更に発展させつつ、コロナ禍収束後はショールームを積極的に活用した課題解決型の提案営業を強化してまいります。自動ブラッシング機能付き内視鏡洗浄消毒装置「鏡内待ⅡG」は、医療機関でのコロナ感染対策の動向を見極めつつも、拡販に向け営業ウェイトを高めて取り組みます。

これらにより次期の業績については、売上高107億円（当連結会計年度比0.9%増）、営業利益7億80百万円（同34.2%減）、経常利益7億40百万円（同36.2%減）、親会社株主に帰属する当期純利益5億20百万円（同37.6%減）を予想しております。利益率の大幅低下は、原材料費の値上りを主因とするものです。当社グループはこれまで値上げをせず技術力と合理化によって対応してまいりましたが、その影響は既に技術対応の域を超えており、原価、販売価格の見直しについても検討せざるを得ない状況にあります。

（単位：百万円）

	2021年12月期 連結実績	2022年12月期 連結実績	2023年12月期 連結予想
売上高	10,203	10,604	<b>10,700</b>
営業利益	945	1,184	<b>780</b>
経常利益	922	1,160	<b>740</b>
親会社株主に帰属する当期純利益	862	833	<b>520</b>
1株当たり当期純利益	172円27銭	167円85銭	<b>105円24銭</b>
1株当たり期末配当	35円00銭 普通25円+特別10円	45円00銭 普通25円+特別20円	<b>25円00銭 普通25円</b>



（注）この頁にある連結通期業績予想及び配当予想は、2022年12月期決算短発表日（2023年2月10日）現在、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在（「2022年12月期決算短信〔日本基準〕（連結）」の公表日／2023年2月10日）入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様自身のご判断で行うようお願いいたします。

本資料の掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報やその誤りなど、本資料の利用によって生じた損害、障害等に関しましては、当社は事由の如何を問わず一切責任を負いませんので、ご了承ください。

## 本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社  
広報・IR室

TEL 03-5276-1932

FAX 03-5276-6530

E-メール [ir@koken-ltd.co.jp](mailto:ir@koken-ltd.co.jp)

ホームページ <https://www.koken-ltd.co.jp/>